

新 飼育ハンドブック 動物園編 第5集 正誤表

2011.6.19

次のとおり誤りがありますので、お手数ですが、訂正願います。

(本文の訂正箇所)	(誤)	(正)
14 頁 右段上から 5 行目	(図 11)	削除
14 頁 右段上から 12 行目	(図 12)	(図 11, 12)
14 頁 右段下から 1 行目～		
15 頁 左段上から 1 行目	(図 13)	削除
15 頁 左段上から 7 行目	(図 14, 15)	(図 13)
15 頁 左段上から 13 行目	注意する.	注意する (図 14, 15).
16 頁 右段上から 10 行目	防止する.	防止する (図 20).
16 頁 右段上から 15 行目	(図 20)	削除
60 頁 右段上から 10 行目	できよう.	できるようになる.
136 頁 左段下から 2 行目 「生餌」の読みがな	なまえ	いきえ

(表の訂正箇所)

59 頁 表 1 の上から 9・10 行目

(誤)

CHEST	右手の人差し指と中指でゴリラの胸の高さのメッシュを差す	聴診器もしくは、メッシュ越しに入れた 2 本の指を当てさせる
MOUTH	右手の親指と人差し指をくっつけた状態でメッシュに向け、この 2 本の指を開きながら号令をかける	聴診器もしくは、メッシュ越しに入れた 2 本の指を当てさせる

(正)

CHEST	右手の人差し指と中指でゴリラの胸の高さのメッシュを差す	聴診器もしくは、メッシュ越しに入れた 2 本の指を当てさせる
MOUTH	右手の親指と人差し指をくっつけた状態でメッシュに向け、この 2 本の指を開きながら号令をかける	口を大きく開け歯と舌を見せる。舌は口から出さない

どうぶつこうえん ニュース



 **千葉市動物公園**
Chiba Zoological Park

アメリカビーバー

げっ歯目(ネズミ目)ビーバー科に分類され、北アメリカに分布しています。夫婦と子ども達の家族で湖や川に生息し、周辺の木の葉、枝、樹皮を食べます。一生伸び続ける門歯(前歯)で木をかじり倒し、その木などでダムや巣を作ります。水かきのついた後ろ足で上手に泳ぎ、尾は水中で舵やオールになる平たい形をしています。

千葉茂 (CHIBA SHIGERU)



No.80
2011
Summer

特集

新レッサーパンダ舎完成と 来園したメイメイ



東日本大震災の影響で遅れてしまいましたが、4月24日に新しいレッサーパンダ舎がオープンしました。

レッサーパンダ舎は2007年に屋内展示場を兼ねた獣舎が増築され、翌年には放飼場もつくられましたが、風太とチチィが順調に繁殖をして飼育スペースもたりなくなってきました。また風太やチチィの孫が観たいという来園者の方々の要望が多く寄せられました。昨年6月から設計に入り、12月より古い獣舎を取り壊し新しい獣舎の建設が始まりました。地震の影響もありましたが、やっと完成させることができました。



繁殖を第一の目標にした新獣舎は、6つの寝室、3つの放飼場があります。皆さんにはご覧になれない寝室は、繁殖中のレッサーパンダはほとんど屋内で過ごすため、広くしました。繁殖後の展示する放飼場は、皆さんがより多くの個体を見られるように3つ設け、その面積も最大限にとりました。放飼場は皆様が観察しやすいように、傾斜地を利用し、目線に休憩小屋を設置して、レッサーパンダが見やすいようにしました。樹上生活者であるレッサーパンダの動きを引き出すため、渡り木を多く作りました。また、計画中ですが、皆さんがいろんな角度からレッサーパンダを見れるような遊具も建設予定です。これからもより観察しやすく、楽しい放飼場を工夫したいと思います。

新しいパンダ舎完成に伴い、新しいレッサーパンダが2月に来園しました。名前はメイメイという、多摩動物公園生まれの

メスです。2007年生まれのメイメイは、クウタ（2008年千葉市動物公園生まれ、風太とチチィとの第6子）のお嫁さんとしてきました。性格は少し臆病で、おしとやかです。大好きなリンゴやゆでたサツマイモを食べる時のんびりとマイペースです。皆さんの気になるクウタとの相性ですが、とてもいいのではないかという印象です。レッサーパンダ舎の工事のためクウタを、馴化施設というところに移動していたため、その場所でお見合いをして、ペアリングをしました。クウタはメイメイに興味津々でにおいを嗅ぎ、メイメイは相変わらずのマイペース、あまりしつこくクウタがにおいを嗅ぐと、「ガア」とメイメイが怒り、すこすこクウタは引き下がります。怒られると喧嘩を売る風太とは大違い、大変紳士的です。その程度の闘争しか見られず、ペアリングは成功したと思っています。そのうち同じ柵でリンゴを食べる仲良しぶりを見せてくれた2頭でした。



完成後の移動もスムーズで、部屋に慣れ、放飼場にも慣れ元気に過ごして皆さんに愛嬌をふりまいています。ただメイメイは不満なことがあるようで、放飼場にモミの木があるのですがクウタはジャンプして登りますが、メイメイは体が大きく（重く）届きません。最初は恨めしそうに見ていましたがそのうち休憩小屋で寝ています。がんばれメイメイ。

メイメイは昨年多摩動物公園で2頭の子供を産み育て上げたお母さんです。クウタとの子も期待できそうです。風太とチチィの孫が当園でも見れるよう頑張ってね、とエールを送りたいです。

濱田昌平（HAMADA MASAHIRA）



「獣医師一年目のお仕事」

今年度より動物公園の動物診療係に配属されました。宮崎といます。動物公園で働きはじめて4年目ですが、昨年までは子ども動物園や草原ゾーンで飼育係の仕事をしていました。今回は私が4月に動物診療係に来てから起こったことや、経験したことについて書きたいと思います。

2011年春の大きな出来事と言えば東日本大震災ですが、その発生直後の3月13日、千葉市若葉区の養鶏場で12日に死亡した鶏から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。高病原性鳥インフルエンザは特に鶏に対し伝染力が強く、国内の養鶏場で一度発生するとその農場の家きん（鶏やアヒルなど）は全て殺処分され、そこを中心として半径5~30km圏内の家きんや卵などの移動が原則的に禁止されます（今回の千葉市での発生では半径10kmが移動制限区域に指定されました）。

動物公園の鳥たちが高病原性鳥インフルエンザにかかったら大変です。園内では鳥類・水系ゾーン、子ども動物園は閉鎖、園内各所の消毒薬散布、消毒マットの設置などの対策を取りました。こうした「病気が侵入しないよう・広がらないように取る対策」のことを「防疫対策」と言います。これを受けて私の診療係最初の仕事は、園内の消毒マットの消毒液の毎日の交換でした。獣医師の仕事は動物の怪我や病気を治すことだけではありません。病気にさせない努力が必要なのです。その甲斐があって動物公園に鳥インフルエンザは侵入しませんでした。ちなみに移動制限が解除された後は、消毒マットとして使用していた大量の毛布やじゅうたんの洗濯が待っていました…（これも大事な仕事です）。

病気にさせない対策の一つとして、ワクチンや予防薬の投与があります。レッサーパンダ、シマウマ、ヤギなどにはフィラリア症（蚊に刺されておきる寄生虫の病気）の予防薬を5月から12月にかけて毎月投与しますし、ニューカッスル病という病気のワクチンを投与するために、年に2回猛禽（ワシやフクロウ）やキジ、ニワトリ達を全て捕獲して注射します。他にも、動物の種類にあわせて様々な病気に対するワクチンを投与するのです。

ここまでいろいろ書いてきましたが、私は獣医師としてはまだ3か月のひよっこです。さまざまな事に目を向け、努力を重ねなければ前には進めないと思っています。いつか「千葉市動物公園の獣医師です」と胸を張って言えるよう、精一杯努力します。

宮崎沙都 (MIYAZAKI SATO)



動物公園のカモたち。彼らを含めたくさんの鳥たちを鳥インフルエンザから守るため、さまざまな対策がとられました。



「マガモの繁殖と、珍事件?!」



5月14日に、マガモのヒナが産まれました。

水禽池の中での繁殖で、ネットに覆われているのでカラスやオオタカに狙われる心配はありませんでしたが、アオダイショウはネットをするりとすり抜けて中に入ってくることがあります。ヒナが襲われやしないかと、私はハラハラしていました。

しかし、ヒナは私の心配をよそに産まれたその日から池を上手に泳ぎ、エサを食べ、夜は母鳥のお腹の下で眠り、すくすくと成長してくれました。もちろん母鳥のうしろをよちよちついて歩くその姿は、お客様から大人気です。

そんな中、ふと気が付きました。マガモの母鳥の近くに、いつもアカリュウキュウガモのオスが寄り添っているのです。

マガモの母鳥は、アカリュウキュウガモが自分に寄り添っていても警戒することはなく、ヒナに近寄っても追い払おうとしません。アカリュウキュウガモもあたかも自分が父親であるかのごとくにふるまい、他種のカモがマガモの母子に近寄ってくると、守ろうとしているのでしょうか、カモを追い払います。

ヒナ達も母鳥が警戒を解いているからでしょうか、すっかりアカリュウキュウガモを信用しており、アカリュウキュウガモの後をついてエサのある池に歩いて行ったりするのです。アカリュウキュウガモが全くの他種であることを除けば、本当にほのほのした光景です。

ヒナ達の本当の父親であるマガモのオスとはいえば、この様子にとんと無関心。基本的に水鳥は母親が子育てをするので、マガモのオスが無関心なのは理解できるのですが、マガモのメスの行動は、さっぱり理解できません。

この原稿を執筆している現在では、ヒナ達は水禽池と一緒に飼育されている小型のカモ達よりも大きくなりました。よちよち歩く愛らしさもなくなり、しっかり歩いているのでぱっと見ただけでは、どれがヒナだかわからないくらいですが、まだまだ母鳥のうしろにくっついてのをよく見受けまます。

そして、アカリュウキュウガモもまだマガモの母親に寄り添っています。この不思議な現象、いつまでご覧になれるかわかりませんので、ぜひ、お早めにご来園ください。

私も、できるだけの調査をしてこの珍事件の解明を試みたいと思っています。

石田郁貴 (ISHIDA YUKI)

- 1月 2日 エミュー: 産卵。卵重570g。
- 1月 4日 チンパンジー(メス、ジージョ)、(オス、サンタ):発咳、鼻汁。
- 1月12日 オオカンガルー(メス2頭 ワラブ、ウーチャン):横浜市立金沢動物園より搬入。
- 1月17日 エリマキキツネザル(メス、イチ):麻酔をかけて、尾の付け根の禿げた患部の治療を行う。
- 1月20日 レッサーパンダ:展示場にネコが侵入。子どもは木に登るが、母親(チチチ)はネコと争ったらしく、右耳の飾り毛に血痕あり。傷は見当たらず。
- 1月22日 ワタボウシバンシエ(メス):腎不全のため死亡。
オオカンガルー(メス、ナミ):朝、左足の爪を剥がした様子で出血。
- 1月24日 ウマ、ロバ全頭:削蹄実施。
- 1月30日 オオカンガルー(メス、ワラブ):朝食欲なく、元気なし。治療を行うが、夕方急速に衰弱し死亡する。仔が育児のうに入っていたので、人工哺育をする。(仔は、2月2日、死亡。)
- 2月 3日 ワタボウシバンシエ:個体識別のため、マイクロチップを埋め込む。
- 2月 5日 シロガオマーモセット:出産。
- 2月 6日 レッサーパンダ(メス、フウミ):お別れ会実施。(7日に鹿児島島の平川動物公園へ)
- 2月 9日 シバヤギ(サヤマメ):メスの仔を出産。
- 2月12日 ハシビロコウ:外温が低いため、終日屋内展示。
- 2月16日 ホンドザル:展示場にコナラの枝を大量に入れる。
- 2月18日 オオカンガルー(メス、ウーチャン):ヒビキ(オス)と柵越しにお見合い。ヒビキが興味津々で柵から離れず。
21日に同居。ヒビキは始終ウーチャンに追尾。
- 2月22日 ハワイガン:なにものかに食害される。
- 2月23日 ムフロン(オス、ピース):多摩動物公園へ。
- 2月26日 コツメカワウソ(オス、ヌー):朝舎内で横たわり動かず。呼吸も浅く、瀕死状態。病院へ運び治療を行うが、その後死亡。解剖の結果は、肺炎だった。
- 2月28日 レッサーパンダ(メス、メイメイ):多摩動物公園より来園。病院で検疫(2週間)を行う。
- 3月 2日 バタスザル:繁殖。
トナカイ(オス、ルイ):多摩動物公園より来園。
- 3月 4日 レッサーパンダ(オス、風太):チチチと交尾。
- 3月 6日 キリン(メス、アジム):右後足の蹄のつけ根外傷。
- 3月 8日 クロザル(若オス、アサキ):父親(アオ)にアタックをくり返す。
- 3月11日 地震時、多くの動物達が展示場を走りまわる。夕方、キリン2頭(リュウオウ、サツキ)、部屋に入らないため、追って入れる。
- 3月13日 鳥インフルエンザが若葉区内で発生。鳥類水系ゾーン、フラミンゴ池、子ども動物園閉鎖。各ゲート、ヤケイ舎周囲等石灰散布。
- 3月14日 トナカイ(オス、ルイ):左角落角



- 3月15日 東日本大震災による輪番停電のため休園。
- 3月17日 ヒワコンゴウインコ:巣箱より雛の鳴き声が聞こえる。巣箱に2羽の雛が孵っているのを確認する。
- 3月20日 レッサーパンダ(オス、クウタ):メス(メイメイ)とペアリングを行う。特にトラブルなし。クウタが恋鳴き(高音でビュルル)を2～3度する。
- 3月22日 鳥インフルエンザ対策として、感受性の高い種(ベニバシガモ等)を病院へ移動する。
- 4月 1日 アミメキリンのリュウオウ(オス)軟便、アジム(メス)団子状便のため、整腸剤を草に混ぜて与える。
- 4月 6日 オグロマーモセット繁殖



- 4月 8日 ケープペンギン孵化。
- 4月10日 オオカンガルー(メス、ウーチャン):袋から仔が顔を出す。
- 4月12日 コアリクイ(メス):展示場の巣箱の中で出産したらしく、背中に赤ん坊がしがみついていた。
- 4月14日 マレーバク(オス、ユメタ):15時20分頃、興奮して展示場を走り回りフェンスに激突したりする。
- 4月15日 本日より通常開園。(県により鳥インフルエンザ終息宣言がでたため。)
- 4月17日 エミュー:食欲なし。展示せずに療養する。
- 4月18日 オジロワシ:最近メスがオスを追い回し攻撃するようになったため、オスを病院の馴化施設へ移動する。
- 4月23日 ビーバー(メス、ピン):出産。午後2時までに2頭、夜間に1頭生む。出産経験があるため、落ち着いて世話をする。



- 4月24日 震災被災者を対象にゾウのバックヤードを行う。
- 4月27日 シロオリックス(メス、ラザニア):オスの赤ちゃん出産。哺乳時以外は、座って寝ていることが多い。
- 4月29日 ムフロン(チナ親子):一般公開。メスの群れと合流させる。他の個体が追い回していたが、午後には、落ち着く。

動物飼育数

平成23年4月末現在の飼育数

総計

142種 777点

哺乳類

64種
452点

鳥類

70種
293点

爬虫類

6種
29点

両生類

1種
2点

魚類

1種
1点

(今年度は全4ページ年3回 次回は10月の発行となります。)

どうぶつこうえんニュース 第80号 平成23年7月15日発行

編集発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>

(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>

[総合案内] TEL043-252-1111

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan



100